
2017年11月号(10月10日発行)

アナログウェア No.4 訂正箇所一覧

■訂正箇所

全ページ：放熱器 → ヒートシンク

p.6 ↑3行目：放熱器の冷却器と実践的対策 → ヒートシンクを活用した実践的熱対策

p.9 ↓2行目：強制空冷では、 → 削除

p.18 左 ↓5行目：また P_o が大きいほど、 → 削除

p.20 左 ↓2行目：パイプ → 流路

p.20 右 ↑18行目：発熱容量 → 発熱量

p.24 右 ↑3行目：における解析結果 → 削除

p.25 図9 ↓3行目～9行目：p.43へ移動

p.30 左 ↑8行目：固体表面 → 固体表面近傍

p.31 左 ↓15行目：カタログには、データを測定したときの条件が掲載されています。 → 削除

p.32 右 ↓1行目：発熱している → 削除

p.35 左 ↓4行目：効率 → フィン効率

p.35 左 ↓5行目：フィンの根元付近の → 削除

p.35 右 ↑2行目：材質 → 素材

p.36 表11：接触圧力 → 追加

p.37 左 ↑5行目：です → は危険です

p.39 左 ↑1行目：を放熱器のどの位置に取り付けるかは重要です → の取り付け場所によって放熱性能は変わります

p.39 右 ↓9行目：，素子間隔が 20mm → 削除

p.40 左 ↑9行目：低下 → 低下率

p.41 右 ↓10行目：は放熱器1の熱の影響を受けて → が放熱の妨げとなり

p.46 左 ↑9行目：の → が使われる

p.51 右 ↓6行目：軸流ファンには不安定領域があるので使用を避ける → 軸流ファンの不安定領域は避ける

p.58 図6 差し替え

p.60 図9 差し替え

■備考

(1)ページ数は、雑誌版のページ数を使っています。

(2)p.5「はじめに」の訂正は省略しています。

(3)意味の変わらない（表現のみの変更）訂正は省略しています。